

NPO法人 ガリレオ工房通信

2018.10

第173号(通巻366号)2018年10月号

Vol.366



2018年10月例会の予定・投稿要領他	2	科学イベントの経済効果	滝川 18
2018年10月以降の活動予定等	滝川 3	実験バトル 大きな音の手作りスピーカー	滝川 19
9月例会の記録	古野 4	定例社内行事「朝の実験まつり」への取り組み	中村 20
科学の祭典 in 北海道	船田 7	ガリレオ WEB 毎日更新 親子で楽しむ科学の本	RUMI 22
青少年のための科学の祭典東京大会 in 小金井	土井 8	ガリレオ工房メンバー等の活動 2018年9月まで	滝川 23
せたがやだいた自然科学教室 アンモナイトのレプリカ	跡部 12	研究会案内 ファラデーの本棚	滝川 23
立川での9月の実験教室より	古野 14	新刊紹介 『子供の科学 STEM体験ブック...』	しらす 24
虫眼鏡で紙を焦がす実験で起きたこと	しらす 16		

次回例会のお知らせ

■ 10月16日(火)

東小金井駅開設記念会館マロンホール2F

18:30 ~ 21:30

詳しくは2ページをご覧ください

▲表紙写真 / 原口 智

「モンゴルの草原」

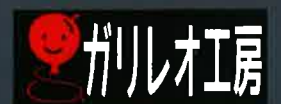
(2016年8月25日撮影 日の出)

日本では山や建物の上から日が昇る場所がほとんどですが、地平線から日が昇るモンゴルの草原では、影がとてもしなりました。

この写真は2018年4月号でご紹介した新刊『大科学実験ノート』の中で「大追跡! 巨大影の7時間」の関連コラムとしても紹介しています。

表紙のカット写真を募集します。2ページをご覧ください。

特定非営利活動法人
ガリレオ工房



理事長 瀧川洋二

〒184-0002

東京都小金井市梶野町 2-3-3

定例社内行事「朝の実験まつり」への取り組み

中村 友香

(株式会社ナリカ 代表取締役社長)

株式会社ナリカでは、「朝の実験まつり」と呼んでいる社内行事を定期的実施しております。これについて、滝川先生をはじめ、ガリレオ工房の先生方にお話ししたところ、ご関心をお寄せ下さり、本稿執筆の機会を頂戴しました。弊社についてのご紹介と、「朝の実験まつり」実施に至るまでの経緯をご紹介します。

弊社は、教育用理科機器の専門メーカーです。お陰様で、本年創業 100 周年を迎えることができました。1918 年(大正 7 年)に「中村理化器械店」として創業して以来、一貫して学校用の理科教材を扱っております。1956 年(昭和 31 年)に、個人商店から会社形態へと転換し「中村理科工業株式会社」となりました。

国内販売のみならず、輸出もしている事や、電子黒板などの周辺機器も取り扱うようになった為、2008 年に社名を株式会社ナリカと改め現在に至ります。

「先生方が教室のスターになっていただくために、ナリカは教室の黒子に徹します。」を経営信条としております。

総人員 83 名。男女比は、男性 6 : 女性 4。理系と文系出身者の比率は、ほぼ半々となっております。また、理科を本業にしておりますが、全社員が理科と関わる訳ではありません。

この取り組みを始めるまでは、会社全体の動きをバックアップする総務部や、商品を仕入れる購買部、製品を学校へお届けするための物流課、電子黒板の提案をする IWB サポート課などは、理科機器を見聞きはすれども単なる商品として扱ってしまうことが少なくありませんでした。

また、これだけ「理科の会社だ！」と声高に叫んで採用活動に挑んでも、入社後に「理科嫌いです」と告白する社員も少なくありませんでした。

しかし、せつかくご縁があって共に働くことになった仲間ですので、本業である理科を好きになってもらいたい、少なくとも興味を持ってほしいという想いから「朝の実験」という当番制の活動を始めました。

「朝の実験」は、社内向けの 5 分間デモです。発表は輪番制となっており、役職、所属、専門分野にかかわらず全員に当番が回ってきます。毎朝行っている朝礼の際に、週 2 回「朝の実験」の時間を設けています。営業所は外回りに出ていることが多いので、実施している拠点は東京本社と栃木県の小山商品センターです。

内容は、理科と教育にかかわることなら何でもよいこととしております。取り扱い製品数が 1 万 5 千点超ありますので、梱包された状態やカタログ・HP の情報では何となく製品について知っているものの実物は見たことがないということも多くあり、「朝の実験」は自社の製品を面前で見られる絶好のチャンスとなっています。それぞれの発表者が、思いのままにナリカの製品を使って実験する。実験をしながら、製品の良さや面白いところをみんなで再発見する。自社製品のみならず、巷で売られているキットを使うもよし、工作や工芸もよし、書籍、動画の紹介もよし、としております。

発表に際しては、プレゼンテーション能力の向上も期待して、理系のバックグラウンドがない社員でも理解しやすく、興味を持てるようにすること、起承転結をつけること、簡潔に発表すること、をルールとしております。どんな発表内容であっても、馬鹿にしない、冷やかさない、ヤジを飛ばさないのもルールとしております。



社員の誰しもが「朝の実験」の日を楽しみにしており、当番が発表することを忘れていたりしようものなら大ブーイングが起こります。

全員が期待しておりますので、発表者(特に文系出身者)には、かなりのプレッシャーがあります。しかし、そこは理科の魅力、さらには実験の力でしょうか、いかなる発表にも興味深い点があり、終了後興味を持った社員たちが車座になり、「どうしてそうなったのか？」を教えあうこと、議論することもしばしばです。この取り組みは見事に成功し、「理科が大嫌い」と公言していた社員も嬉々として発表し、理科に興味と関心をもって仕事に取り組むようになりました。

「朝の実験」は、はや十年以上にわたって毎週実施しております。

この「朝の実験」を同拠点内でしか共有できないのはもったいない、との声から、言わばグランドスラムである「朝の実験まつり」に発展しました。発表時間は各チーム 10 分の実験バトルです。プレゼンテーション能力と製品知識の向上、社内でのコミュニケーション活性化を目的としています。土曜日の出勤日に毎年 2 回開催しております。この日は、全拠点から社員が東京本社に出勤して参加します。

毎回、順番が均等に当たるように全社員から 10~16 人選びます。そのメンバーを抽選で、「バディ」と呼んでいるチーム(2 名 1 組)にします。その際は、できるだけ拠点の違う者、部署や役職が違う者が同組になることを願って、くじ引きで決めます。

全バディの実験終了後、「知識向上賞」「プレゼンテーション賞」の 2 つ観点で投票し、総合得点が一番多いバディが「朝の実験まつり大賞」の栄冠に輝きます。

この取り組みも、5 年目に入り第 10 回大会が終了しました。年々レベルも上がってきており、発表者のハードルも上がってきております。誰もが理科を楽しみつつ、知識を向上させ、仕事に役立てています。ナリカの製品、カタログ、サービスの裏には、こういった取り組みがあることを記憶にとどめていただけますと幸いです。引き続きご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。

